

# 時事新報

明治廿七年六月廿七日 水曜日  
 舊曆甲午五月廿四日 (庚子)  
 日出版部 第六五九八分  
 月出版部 第六五九八分  
 年出版部 第六五九八分  
 (西曆一千八百九十四年)  
 年終より 百七十八日  
 年未まで 百七十七日

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり 時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

## 時事新報の特派員

朝鮮東學黨の内亂は追々其勢力を増して今日本同政府も容易に討平する能はざるのみならず暴徒は諸要地を占領して既に京城を距る二十有餘里の地に迫りたりと云ふ事態頗る難からざるを以て本社は八重山艦に便乗し特に社員高見龜氏を朝鮮に派遣したり

本社は豫て京城に派遣しある通信者にも特に照會する所あり且つ特派員も既に出發したる事なれば今後東學黨の擴張は電信を以て郵便を以て續々時事新報紙上に躍出すべし尙ほ電報の擴張に依りては引續き社員の特派を要すべきを以て本社は豫め部署を定め後報の到るを待つ

## 更に二名の特派員

今回朝鮮東學黨の變亂に乗じ清國は大軍を派遣するなを事能容易ならざるを以て既に社員高見龜氏を朝鮮に派遣したり其後の擴張に依りて本社は更に社員を特派するの必要を感じ更に社員を特派するものと左の如し

廣島縣下(特派) 山口 廣岡 兩縣下(特派) 石川 信氏

## 朝鮮内地の特派

本社は朝鮮の警報に接するや直ちに高見龜氏を同國に特派し豫て廣島馬關の兩地にも特派員を置くの要あるを以て山崎知遠、石川信の兩氏を派遣したり高見氏は京城仁川の間に在りて報道に従事する筈なれば清軍の戦地に於ける運動、東學黨變亂地の實況は親しく之を察するの暇なきを以て今度杉義太郎氏を本社の特派員として使地に派遣し進んで戦地の地域に入り親しく戦況を探らしむる事となし氏は去る十一日を以て東京を出發したり今回の事件に就き本社の特派員は既に四名に及び昨今續々電報の來着するも只だ紙上に公にする能はざるを憾む今後時機を得ば是等の報載は一時に公にして讀者の閱覽に供すべし

## 時事新報

## 朝鮮問題の關係廣し

朝鮮は東洋の獨立國にして日本を始めとし歐米の諸國とも對等の地位に在るものなれども其實際の國力微弱にして自から自家の獨立を維持するに足らざるは勿論軍に國內の秩序安寧を保つものと一覺東洋の諸國なり例へば彼の東學黨の如き元元れ島合の貴民にして大將を得ず可き人物もなく又武器兵糧の備もなく唯多勢を以て地方の官廳を襲撃し官吏を殺し財物を掠奪するを以て事とする純然たる百姓一揆なるにも拘はらず彼の政府は数月の久しき之を鎮定するも能はず漸く増進せしめて遂に國家の安危にも關する程の一大事と爲るに至りしを中央政權の偉大なるを證するに足る可し前年或る朝鮮の一士人が自國の弱はざるを憤り動もすれば人に罵られて云ふやう日本の兵士二百名おれ

は直に京城に突進して政府を顛覆するも易し云々と固より一時の慷慨談に過ぎざれども彼の國現時の狀況に照して考ふれば強ち無稽の妄説に非ざるを發見す可し左れば朝鮮が今日まで悉く獨立を維持したるは軍の偶然の僥倖にして今後如何なる事の成行よりいつ何時、全土を擧げて他國の有と爲るやも知る可らず其危きも實に風前の燈火にして今日東洋の一角に斯る弱國の存在するは恰も飢へたる犬の群中に一塊肉を投ずるに異ならず香啖飽くもを知らざる世界の國々が稀有の誘惑に遇ふて安んじ能く自から欲情を禁ずるを得んや幸にして今日まで各國互に他を退けて己れ獨り利益を專にせんとする其嫉妬心の爲めに却て弱國の安全を得たるもなれども此安全は果して能く永續す可き否や頗る疑なき能はず方今この弱國を自家の所屬と爲さんとするに最も熱心なるは清國なり同國政府は古來これを以て中國の屬邦なりと稱し近年西洋諸國と交際を開きたる後種々の口實を設けて曖昧の間に其獨立權を抹殺し去らんことを試みたりも明治九年日本政府は他に率先して條約を結ば朝鮮國獨立の事實を世界に明にしたるより西洋文明の國々も相次で條約を締結し今は其自主權に一點の疑を容るゝものなきに至れり然るに支那人の迷夢は尙ほ未だ醒覺せざるにや心竊に舊時の屬邦論を忘るゝも能はざる様子なれば常に好機會の乘す可きものを窺ひ時機到來次第直に隣國を亡ぼして積年の空論を實にせんとするの野心あるものと見做して間違ひなかる可し即ち今回の内亂に騒々しく出兵したるが如きも彼等の胸算には好機會の到来と誤り認めたるもならんのみ支那に次で朝鮮に志を抱く者は露西亞なる可し同國は人の知る如く世界第一の大國なれども其廣漠たる版圖の内に長港なきが爲めに軍事上尙上基だしき不便を感ずるを以て何處にもあられ海に接する領地を得んとし汲々たるは今に始ぬものとながら何分にも歐羅巴に於ては他の諸國に遠られて其目的を達するも能はず又印度、亞非肝の近傍に領地を開かんとすれば英國の妨害に逢ふて是亦意の如くならず頗る困却の折柄親しく自國と境を接する朝鮮を見れば其沿岸には天然の良港少からず加ふるに國の位置は支那日本に密接して交通往來最も便利なり之を得れば南資に軍略に益する所少小ならざるも明なれば露國が朝鮮の地方に進軍するも亦甚しむに足らず唯その轉る所は英國のみ英國年來の政略は専ら露西亞をして海岸に出るものとせしむるの一事は在れば今若し露人が朝鮮に對して侵略的の方針を取らざるもあらんには英政府はあらゆる力を盡して之くまでも之に抵抗するに相違ある可らず或は時宜に依りては朝鮮を以て英の屬國若しくは保護國と爲すに至るやも計る可らず唯も目下の形勢よりして想像すれば英國は自ら手を下して朝鮮を取らんよりは寧ろ之をして支那の屬國たらしめ爾後より朝鮮に支那を援けて露の侵略に當らしむる策に出でんとする者の如し左れば朝鮮の問題を論ずるに眼中單に朝鮮の一國のみ

## 雜報

○電報禁止説の由來 清政府が在韓日本人より發送する電報の取扱ひを禁じたる事に付き時事新報は其說傳なるを報道し置しが今京城より或方へ達したる電報に清政府が日本人の發送に係る電報の取扱ひを禁じたりとの事は誤開なり右は此程袁公使が閩氏(泳駿か)と會せし時尙し大事に及ばず義州線は中國の特有物なるを以て他の通信を遮止するも禁止するも亦た之れを切斷するも我れの勝手たるべし云々と誇唱せしより訛傳せしものなり但し自國の報を先にして他國の報を後にすべしとの命令は袁氏現に之れを傳へたりとありしよし

○崔時亨 朝鮮東學黨の將帥にして舊きに同黨が全州監營を陥れたる時きの如きも之を統率せしものは同人なりしと聞く處によれば同人は全羅道の人にして大雅と號し明治二十四年夏の頃我國に渡來し小倉福岡等に遊び夫れより神戸大坂を遍歴して西京に赴き同地に滞留するも三箇月餘に及べり福岡に於て同人に出遇ひたる人の話といふを聞くに其時年餘は四十内外身軀肥大にして眼は細長く鬚髮は稀疎たり人となり就歐にして最も書經を好みし由にて西京滞在中も某書肆より同書一部を購入し舊窓の下常に之を誦讀して左右を離さざりしと云ふ

○淺草區の競争 同區に於ける代議士選舉競争の様はますます熱度を加へ來りて兩派の運動頗る激烈なり今其概略を擧げん

○淺草區の競争 選舉の期日も未だ定まらざるのみならず淺草區の候補者は須藤時一郎氏と前代議員高梨哲四郎氏との競争にて實兄弟たる骨肉の關係なれば斯く速かに開戦あるべしと思ひ設けざりしに去る十二日の事なりとか同區花川戸町の同好會員某氏等が内閣議の上須藤氏を推すものと決し高梨氏方に往て今回の選舉は實兄弟たる須藤氏に譲る方然るべしと説きたるに同氏は何れ兩三日中に何分の決抄を爲すべしと云ひ置き其翌十三日より十七日まで同區内の選舉有権者を代るべく招待して選舉を爲し運動の準備に着手せしより須藤氏も十餘名大に集り急に反折的の運動を爲したるも在りて兩派競争の激戦を聞くもなれり

○高梨派の候補 高梨氏は是まで毎回の選舉に當選したる式ありて同派の運動者は頗る熱心に熱誠し奇策を設けて賛成者を勧誘する方策等に巧みに運動家なれば反對者に取りては侮り難きものありと云ふ

○須藤派の候補 須藤氏は賛成者には老成家多く競争上の運動には不格好なれども今固は是非とも同氏を擁出せんと奔走し居るのみならず高梨氏の行爲に就て憤

## 明治十七

十七年十二月七日 午後二時頃竹添少将以下日本人民、同は横濱の公使館を引拂ひ東大門前を引連り更に西へ向て進行し書大砲の門前を越る時、軍左衛門兵士凡そ五百名計(平常支那兵の訓練を受けし者なり)並列して我道を遮り大砲を發するも二回、小銃を連射し一時大に困難したるが我國海軍の艦隊に由り遂に彼等は悉皆何所に散らばりたりといふ